

セキュリティ理解度チェック WG

キャノンITソリューションズ株式会社
WGリーダー 西浦 真一

■ はじめに

セキュリティ理解度チェックWGは、利用者視点の情報セキュリティリテラシーの向上を目指し、JNSAが提供する「情報セキュリティ理解度チェックサービス」「理解度セルフチェックサービス」の継続的な問題の見直しを行うと共に、プレミアム版（有料サービス）のユーザー数増加に向けた対外活動を実施しています。また、プレミアム版利用者の増加に伴い、安定的に運用可能な環境の整備強化を検討することも目的として活動しているWGです。本WGは2010年に「セキュリティ理解度チェックWG」と名称を改めてから、今年で12年目を迎えます。今回は最近の活動内容と、提供しているサービス内容を中心に、WGの紹介をさせていただきます。

■ WGについて

組織の社員・職員がそれぞれパソコンやスマートフォンなどの情報端末を使用し、メールやSNSなどのコミュニケーションツールを使っての連絡やインターネットを利用して情報を受発信することが業務の重要な手段となってきています。そのような状況の中では、社員・職員1人ひとりが適切な情報セキュリティの知識を身につけて安全な利用を図ることは大変重要となります。このため、組織の管理者は自組織の社員・職員に対して、情報セキュリティに関する研修やテストを行い、リテラシー向上に努めていらっしゃるのではないのでしょうか。当WGでは、組織の管理者が効果的な教育を行うことを目的に、自組織の社員・職員の情報セキュリティの理解度を測るためのサービスを提供しています。このため、本WGでは管理者ではなく、組織の一般ユーザーをターゲットとし、有事の際にどのように行動するべきかを問う問題を継続的に追加してまいりました。

昨年2020年は、突如として始まったコロナ禍において、感染者数が多い東京などの都市部を中心に、感染防止策の一環としてリモートワークを導入する組織が増加しました¹。働き方改革として利点も多いリモートワークですが、組織の管理者にとっては、ユーザーそれぞれの自宅という、オフィス内での業務を想定した情報セキュリティ教育が通用しない環境におけるセキュリティ対策などの不安もあります。そこで、当WGでは、2020年の活動として、「ニューノーマル」、「リモートワーク（在宅勤務）」、「ビデオ会議ツール」をテーマにJNSA会員から問題を募集し、監査を行い追加しています。

■ サービスについて

- ❑ 情報セキュリティ理解度チェック（プレミアム版） <https://slb.jnsa.org/eslb/>
- ❑ 理解度セルフチェック <https://slb.jnsa.org/slbm/>

「情報セキュリティ理解度チェックサービス」の詳細は上記の公開ページをご覧ください。本サービス最大の特徴は前述のとおり、多くの情報セキュリティに関連する検定やテストが、情報セキュリティマネジメントに関する業務や情報システムの企画・設計・開発・運用業務に就く管理者をターゲットに据えているのに対し、システムを利用

¹ 東京商工会議所 | 「テレワークの実施状況に関する緊急アンケート」調査結果を取りまとめました～緊急事態宣言発令以降テレワーク実施率は67.3%と急増～ <https://www.tokyo-cci.or.jp/page.jsp?id=1022366>

する組織内の一般ユーザーをターゲットとしていることです。用語や法令知識を問うのではなく、セキュリティモラル・リテラシー向上に焦点を当て、有事の際にどのように行動すべきかを問う問題を揃えています。

このため、本サービスは多くの業種にてさまざまな職種の方にご利用いただいています。本サービスの利用者（プレミアム版の管理者）を業種別でみると、情報サービス（ソフトウェア、情報処理）が39.9%と最も高く、その他サービス業、製造業、卸売・小売業がそれに続きます（表1）。また、利用者（プレミアム版のユーザー）の職種別では、コンピュータ関連の技術者だけではなく、営業職や管理職、生産、総務・人事・法務など多くの職種の方にご利用いただいています。サービスで提供している問題に興味をお持ちの方は、無償で利用できる理解度セルフチェックサイトもありますので、ぜひ一度チャレンジしてみてください。

この情報セキュリティ理解度チェックサイトを、皆さまの組織の情報セキュリティ向上のための一助としてご活用いただければ幸いです。

表1 サービス利用者の職種（プレミアム版 管理者）

業 種	割合 (%)
情報サービス（ソフトウェア、情報処理）	39.92
製造業	10.70
卸売・小売業	5.31
建設業	3.31
学校・研究所	3.25
金融・保険業	1.95
通信業（固定/移動電気通信）	1.72
公益法人・NPO・組合等	1.68
教育、学習支援業	1.66
運輸業	1.57
不動産業	1.25
医療、福祉	1.17
政府・官公庁	1.15
ISP、ASP	0.85
出版業、新聞業	0.81
電気業（発電、変電）	0.55
農業	0.47
飲食店、宿泊業	0.40
ガス業	0.38
放送業	0.38
漁業	0.09
鉱業	0.09
林業	0.08
水道業	0.08
熱供給業	0.06
その他サービス	14.72
その他	6.41

表2 サービス利用者の職種（プレミアム版 ユーザー）

職 種	割合 (%)
コンピュータ関連の技術開発・研究	10.90
システム/ネットワーク管理者	4.16
設計・デザイン・クリエイティブ	4.76
コンピュータ関連その他	11.83
コンピュータ関連以外の技術研究・開発	1.88
管理職	7.70
生産	4.22
営業	11.04
総務・人事・法務	3.88
カスタマーサポート	3.18
経理・財務	2.17
その他専門職	3.73
学生	2.46
その他サービス	5.44
その他	22.65

JNSA ワーキンググループ紹介

■ 最後に

コロナ禍において組織における教育・研修の在り方は、大きな変更を迫られています。情報セキュリティリテラシーを含め、組織における集合研修の多くはコロナ禍において避けることが望まれる、「三密（密集・密接・密閉）」の環境で行われていました。その解決策としてオンライン教育サービスの市場規模は急拡大しているそうです。矢野経済研究所の調査によれば、国内におけるeラーニング（オンライン教育サービス）の市場規模は2016年に1767億円程度でしたが、2020年には2460億円規模まで成長していると予測²されており、今後も市場は成長していくと見られています。

当WGでは今後、より高まると考えられるサービスへの需要に応え、より良い設問の充実を図るためにも、共に活動していただける仲間を必要としています。本WGは会員交流部会に所属しており、WG活動を通じて仲間を作ることも本WGの大切な目的の一つです。また、一般ユーザーに求められる行動を想定し問題を作成する、既存問題をアップデートすることは新たな気づきにつながり、勉強にもなります（かく言う私も当初の参加目的は勉強でした）。コロナ禍の現在はオンラインミーティングが中心ではありますが、活動に興味がございましたら、お試しでも構いませんので是非お気軽にご参加ください。

WGメンバー

キヤノンITソリューションズ(株)	西浦 真一 (WGリーダー)
(株) アズジェント	秋山 貴彦
(株) インテリジェントウェイブ	西谷 健二
(株) インテリジェントウェイブ	佐々木 謙一
グローバルセキュリティエキスパート(株)	萩原 健太
(株) 日立ソリューションズ	扇 健一
富士通(株)	幸田 一生
ニュートラル(株)	小屋 晋吾
(株) ラック	長谷川 長一
(株) ラック	持田 啓司

WG協力者(問題監修委員会 委員)

情報セキュリティ大学院大学名誉教授/JNSA 会長	田中 英彦
早稲田リーガルcommons法律事務所 弁護士/JNSA 顧問	森山 裕紀子

² 矢野経済研究所 | eラーニング市場に関する調査を実施 (2020年) https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/2404